

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405-1		
自己評価作成日	平成29年6月23日	評価結果市町村受理日	平成29年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=2171000454-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

白鳥町の中心部に近い住宅街という環境の中で、地域の方との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ってもらい、また、日々の生活の中で生き甲斐をもってもらい、楽しく、心安らかに生活していただける空間づくりを提供できるように取り組んでいる。
医療法人社団 福寿会として、グループホームの他に小規模多機能型居宅介護、特定施設生活介護、短期入所生活介護、さらに居宅介護支援など、各それぞれの施設と連携を取りながら、利用者様やご家族の方の希望に沿った、個々の思いに適した総合的なサービスを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設15年となり、地域のなかで、なくてはならない存在となっている。医療法人の強みを活かして複数の介護事業を展開し、安定した運営を行っている。それぞれの施設と緊密に連携し、相互に機能を補いながら、質の高いサービスを提供している。利用者の疾患から表出する困難症状にも、職員の知恵と介護力を発揮し、目に見える成果を上げている。今年度は、高卒者を1名採用し、職場の活性化につながっている。家族からは、法人に対する信頼が厚く、終の棲家として期待されており、職員の働く意欲にもつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方にも理解をしていただけるようにと地区の行事に関わり、職員は利用者様が笑顔で過ごしていただけるように、理念を共有し、また、事故の無いように実践につなげている。	理念は、事業所内の目立つ位置に掲示している。管理者と職員は、日々その意義を共有しながら、利用者の笑顔を引き出し、生活の質を高めながら、生きがいのある暮らしの支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方のご理解をいただき、春祭り、秋祭り、盆踊り等地域の行事に参加して交流している。 また、介護体験として、地元の学生の受入をしている。	立地条件にも恵まれ、地域住民やイベント広場、商店での買い物、食材の仕入れなど、近隣との交流は日常的に行っている。園児や小学生の来訪、高校生の介護体験も受け入れ、地域の中に密着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談等されたり、聞かれたりしたら、説明して、理解していただけるように対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き、ご家族や市職員等からの意見を聞き、その結果をケア会議等で話し合い、サービス向上に努めている。	市の条例改定で、運営推進会議は、年に3回の開催である。運営の実情を報告し、出席者は、全員が意見を述べている。利用者の高齢化・重度化についてや、防災対策、施設運営のマンネリ化対策なども話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月高齢福祉課より介護相談員の方がみえるので、そのときに意見、アドバイスを聞き、また職員の思いも伝えて協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には、高齢福祉課課長が出席している。介護保険制度や人材確保、成年後見制度などで助言を得、困難事例は、役所の窓口に出向いている。市から派遣の介護相談員の訪問を継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険行為がある場合は家族の方に何度も説明し、見守りもできるように心がけをしている。時には利用者様の安全を考え、施錠も必要なときもある。その場合はご家族様に説明して、納得していただいている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全上、やむを得ない場合の対処は、家族と話し合い同意を得ると共に、代替案の工夫に努めている。玄関の施錠は、安全上、必要な時間に限定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い話し合いをして防止につないでいる。相手の立場になって接するように職員間で話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用してみえる利用者様はみえるが制度に関しては分からない職員がいるので学べる機会があれば参加してみたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所されるとき契約時に、ケアマネが家族の方と話し合い、安心していただけるように、不安なことや分からないことがあれば、十分な説明をして理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られたときなどにご家族の方からの要望等あれば意見を聞いている。また毎月介護相談員が見えるときには、利用者様ご本人からの要望があれば職員に伝えていただき、職員間で話し合いをしている。	家族とは、訪問時に話し合いの場を設けており、献立表の要望がある。ホーム便りに手書きのメッセージを添え、家族との意思疎通を図っている。利用者とは、見守りの中で意向を把握し、サービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や申し送りなど日々の仕事の中で職員の意見を聞き、提案があれば話し合い、良いことは反映している。	ケア会議に加え、責任者会議があり、意見や提案の場になっている。利用者の症状に合わせたケアの改善、接し方、言葉かけなどを全体で共有し、実践の成果を確認し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にあった労働環境がある。昇格や資格手当など向上心を持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会など、参加できる機会がある。身近にあれば沢山参加したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自ら行動をすれば勉強会に参加できる。しかし、他施設との交流はなかなか機会がないのであれば参加してみたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	食事に関しては量等本人に確認して要望を聞き、安心して早く生活に慣れていただけようご本人の思いを聞く。また、積極的にコミュニケーションをとり、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の方の考えや不安なことを聞き、話し合いの場設けて気持ちを理解している。また、毎月個人便りや、苑便りなどで、苑の生活伝え、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にケアマネよりご本人、家族様との話し合い必要なサービスを見極め、サービス計画を作成して提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の自主性を尊重して職員と良い関係であるように努めている。また、利用者様の気持ちを理解し、人生の先輩として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	問題があればご家族の方に連絡し、相談したり意見を聞き、家族の絆を大切にしながらご本人との関係を深めていけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に方の協力を得て、利用者様の希望される美容院にも行っていただいている方もいる。また、知人の方が面会に来ていただいたときには、感謝を述べ、また来ていただけるよう声かけをしている。	馴染みの美容院や飲食店、近郊の神社仏閣、道の駅などへ出かけている。家族と一時帰宅の人もある。併設の老人施設入所者との合同イベントや相互交流を通じて、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を考えて席決めを決めている。また、コミュニケーションがなかなかとれない利用者様のことも常に考え、良い関係が保てるようにレク活動や歌など一緒に楽しんでいただけるよう、工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は面会に行き、その後の様子を伺いご家族の方から退所されても相談や不安なことなど、聞いて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	恒に一人ひとりに声かけをして気づいたことを記録したり、家族の方に伝えたり、職員間で話し合い、コミュニケーションで希望や思いを通るようにしている。	日々の暮らしの中で、利用者との会話や表情から思いを把握している。職員は、それらを申し送りノートで共有し、家族からの情報も考慮しながら、希望する暮らし方に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にご本人や家族の方から今まで生活されてきたこと、日頃の会話を知り、ご本人の希望に添える様支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや、申し送りなどでご本人の体調、状態を知り、一日の生活内容を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様から聞いたことをプランを作成し、ケア会議等で話し合い、職員の意見を聞き、現実的なことを念頭に入れている。	家族からは、事前に要望を聴き取り、ケア会議で利用者のこれまでの経過の検証と必要なニーズに検討を加えている。利用者の自立を支え、健康を維持し、穏やかな生活が送れるよう、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの訴えや状態など申し送り等で記録しその場でのカンファレンスで対応を考えてプランに生かしている。 職員間で話し合い相談をして見逃さないように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズを把握し、職員同士で話し合いをして柔軟な支援をしている。		

岐阜県 グループホーム コスモス苑赤とんぼ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠足・花見など、行事やボランティアを活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者様は隣接している医院の主治医で、家族の方と話し合いをしてご理解いただき、適切な治療が受けていただくよう支援している。 専門な治療を受けられる場合は、他の協力期間に受診していただいている。	かかりつけ医については、家族の意向を確認し、同法人の医師に変更している。専門科の受診は、家族と連絡をとり、協力機関と連携し、急変時にも万全を期している。歯科医の往診体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日中の中で変化に気づき、看護師に相談をして主治医の指示をもらい、処置を行っている。体調が悪い場合や問題があれば、まず看護師に相談する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、サマリー、医師の紹介状などで利用者の状態を医療機関に伝え、情報交換につながっている。その際職員も同行して情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方とは入所時に十分な説明や話し合いをして、容態が悪くなってからの対応に意見を聞いて、医師、看護師、介護職員が連携し、意見に合った支援をしている。	重度化や終末期の方針は、事前に希望確認書を家族と交わしている。さらに、利用者の容態に応じて、医師と家族、関係者で話し合い、合意と連携の下で、穏やかな最期を迎えられるように支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はやっていないが、事故発生時には、看護師・主治医に報告して、応急処置等の指示をもらい体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署、自治会、各職員等が参加する合同の避難訓練を行っているので、避難方法など確認して訓練に参加している。消防署・自治会の方にはご協力いただき、ご理解いただいている。	毎年、消防署、自治会、地域住民が参加する災害訓練を行っている。併設する各老人施設との防災組織を整え、備蓄も確保している。訓練は、避難方法の確認と夜間も想定して行っている。	訓練は、火災が中心であり、水害や地震、土砂災害等にも備えたマニュアルの見直しと、職員の対応力の向上に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格や状態を理解して、今までの人生を尊重し、言葉使いに気をつけながら対応している。	一人ひとりの個性を尊重し、むやみに否定したり抑制せず、誇りを損ねないように心がけている。うつ症状がある人には、根気よく、穏やかな言葉かけや対応を行い、症状が和らぎ、改善につながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意向ノートを作り、気づいたことを記録して実行できるように努めている。また、積極的に声かけや関わりをもち、希望や思いを話せる雰囲気づくりをしている。自己決定が難しい利用者様は行動をみながら把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切に観察日記を参考に職員と一緒に行動し、その日の体調、精神的な不安、また、食事など、個々のペースに合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人にオシャレ感をもってもらうように、衣類は本人に決めていただくように声かけをして、季節感の合った服装ができるように家族のかたに持ってきてもらうなど協力してもらい、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者様には、テーブル拭き、皮むきなどを手伝っていただく。ときには、焼きそばを出来る方は職員と一緒に作ったり簡単な作業をやっていただいている。また、調理員が利用者様の嫌いなものを把握し、利用者様に喜んでいただいている。	専属の調理人が食事を作り、検食制度もある。法人内の食品衛生と給食に関する検討会議で、美味しさと献立の質を確保している。食事の準備や片づけは、利用者も、出来る人が出来る範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックして声かけをし、その方に合った食事を提供している。また、問題があれば管理栄養士に相談、指示を受けている。水分ゼリーなどつくり出来るだけ摂取していただけるよう提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。出来ない人は声かけをし介助している。夜間は入れ歯を預かり、洗浄剤につけて衛生面に気をつけ、朝まで預かっている。		

岐阜県 グループホーム コスモス苑赤とんぼ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録して排泄パターンを把握し、夜間オムツの方でも、日中はトイレでの排泄が出来るように、声かけをしてトイレに誘導している。	個々の排泄パターンに応じてトイレへ誘導し、習慣化できるよう努めている。自立度の高い人も、見守りながら昼夜ともに、声をかけ、失敗を減らすことで、オムツの使用量も減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録して、パターンを把握し、体操、散歩など、身体を動かすときは水分補給は必ず行い、腹部マッサージもやっている。また、水分補給には、水分ゼリーなどで、取りやすい工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴が決まっているが、希望やその日の体調に合わせて変更したりするなど、対応している。(必ずバイタルチェックをする)	入浴日は、その日の体調や気分に合わせて、柔軟に支援をしている。重度者にはリフトを用い、汚染があればさりげなく対処をし、清潔感を大切にしている。入浴を嫌がる人には、促し方を工夫し入浴を可能にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じて一人ひとりに合った休息時間を取れるよう努めている。また、体調の良い日は、外気浴をしていただき、昼食後は休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや服薬チェック表など飲み忘れが無いよう情報を共有し、利用者様の状態の変化に気をつけ一人ひとりの薬の内容や副作用など、理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時、その場所で楽しんで笑えるように努力している。また、好きなこと、嫌いなことの把握に努めレクリエーションなども工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	カフェの日、遠足、花見など外へ出かける機会を作っている。また、天気の良い日はなるべく外気浴、散歩などを行う。時には、家族様と外出に出かけられることもある。	広い前庭が、外気浴と気分転換の場となっている。また、近場に、カフェの日も設けて出かけている。季節の花見や遠足、道の駅(足湯)などへ出かけたり、家族と外食や買い物、寺詣り等へ外出する人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため、事務所で預かっている。美容院など必要時には、職員と一緒にやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、連絡のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った作品をフロアや居室に飾ったり、季節の草花を飾ったりしている。毎日の整理整頓を心がけ、季節感をだした居心地の良い空間で過ごしていただけるよう工夫している。	要所に季節の草花を飾り、壁には、七夕飾りやことわざ集、手づくり作品、記念の写真をなどがあり、生活感がある。2階への昇降には、エレベーターを備え、落ち着いた談話コーナーの窓越しに季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士近くに座ったり、会話をされたり思い思いに過ごしていただいている。また、一人ひとりが落ち着いていられるように席を決めて安心してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の大切なものを写真や小物など持ってきていただき、居室で管理できる人は管理してもらい、居心地の良い空間で過ごしていただけるように支援している。	居室には、洗面台とクローゼットを備えている。馴染みの物、大切なものを自由に持ち込み、自分の部屋として安心できるように配置をしている。利用者の中には、仏像を持ち込み、礼拝している人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに、分かるように名札など張り紙をして、利用者様の有する力を活かせるよう、出来ることはやっていたくよう支援している。安全に自立した生活を心がけている。		